

南達交通安全新聞

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動！！

運動期間

平成29年12月10日(日)

～平成30年1月7日(日)までの29日間

運動スローガン

「ありがとう 早め点灯 思いやり」

運動重点

(1) 夕暮れ時や夜間の交通事故防止

(2) 全ての座席のシートベルトと

チャイルドシートの正しい着用の徹底

(3) 飲酒運転の根絶



第28回 南達交通安全大会



南達一市一村にあっては、交通量が増加しており、これに伴い交通事故の発生も増加する可能性を持っています。

さらに、高齢化社会を迎え、全国的にもお年寄りの犠牲者があとを絶たないことから、事故防止のための抜本的対策を講じる必要性に迫られております。

本大会は、このような情勢をふまえ、南達一市一村が一丸となって総合的な交通事故防止対策を推進することを目的とし、11月18日(土)に本宮市のサンライズもとみやで開催されました。

大会では、交通安全功労者及び交通安全作文コンクールの表彰式も行われました。



～受賞者代表者謝辞を述べる菊地利勝さん～



— アトラクション：本宮市立第1保育所(左)と本宮高等学校吹奏楽部(右)による演奏 —

南達交通対策連絡協議会
本宮市・大玉村交通対策協議会 郡山北警察署本宮分庁舎

中学生の部

【最優秀賞】

『交通安全の意識を高める』

本宮第一中学校3年 有馬 詩織

私が登下校時に通る道には、狭くて歩道のないところがある。その近くには住宅や小さな保育園もあり、特に下校時は意外と車が通る。その車とすれ違つたとき、後ろから追い越されるとき、車体と自分の近さに思わず不安になる。大きい車のときや、路肩に農耕用の車が停まっているとき、前後から車が来てしまったときはなおさらだ。少しでも私が相手がすれ違つたかしてしまいそうな気がする。又、曲がり角で建物のために来ている車を認識できず、曲がってはじめて、ほぼ正面に見える車に驚くことも少なからずある。

このようにことがある度、私は「このことを心に留める。』『絶対に安全』はありえない」「譲り合いを大切にしよう」ということだ。具体的な行動としては、車・自転車の通行を必ず確認することや、通行がある場合は自分が譲ったり、迷惑にならないように端に寄るか立ち止まるなどである。道の横断時は譲り合つて他の人の迷惑になつたり、譲ってもらつたから行つたとする相手も急に発進したりすることがある。それで事故が起こつては「譲り合い」の意味がないので、相手が自分を見ていることを確認してから、頭を下げるなどの意思表示をして渡るようにすると良いのではないだろうか。まずは歩行者側が自分の安全を守るように心がけていってほしい。

もちろん運転手側も、自分だけでなく同乗者や歩行者、周りの人の安全を守るように心がけるべきだ。車は対歩行者・対自転車において圧倒的に強い。だからこそ、それらに対して細心の注意を払うことが大切だと思う。最近は高齢の歩行者や運転手、子供が被害を受けることが多いという。事故の起きないよう、特に注意が必要だと思った。細い道や住宅地では減速するとか、角の出会い頭に気を付けるなど、子供の事故は減るのではないかとと思う。又、高齢者は半分以上が夜間の事故なので、歩行者側が反射材を身に付け、明る色の衣服を着用することにも、運転手も路肩に注意しながら走行するよう心がけると、夜間の対人事故も減ると思う。

交通事故を減らし、もし起きても事故の程度を軽へすするには、『絶対に安全』はありえない。「譲り合いを大切にしよう」ことが大切だと思う。私には交通事故なんて関係ないという無関心な態度も、事故が起きる原因の一つだと私は考える。だから、歩行者だけ、運転手だけ、というふうに片方だけが関心を持つのではない、皆が交通安全や無事故を意識することで、それらが達成できるのではないだろうか。私たちがまずすべきことは、その意識改革だと思う。

一般の部

【最優秀賞】

『小さな先生』

本宮高等学校1年 安田 実夢

ある日、私は街を歩いていた。歩行者用信号機が青く点灯し、横断歩道を渡ろうとした。その時、元気な声が私の耳元に届いた。

「右見て、左見て、もう一回右見て……渡りますー!」

と、母親に手を取られながら、精一杯小さな手を挙げて横断歩道を渡る、男の子がいた。その姿は、どこか誇りっぽい、可愛らしいと思えた。

それと同時に、一つの疑問が生じた。それは、交通安全に対する気持ちの薄れ。

私達は、幼い頃から何度も、交通安全について教えられてきたはずだ。しかし、その教えは、日々忘れ去られてつづつある。今回の件を例に捉えると、幼い頃は、当たり前でできていた事が、大人になった今、それを果たせなくなっているという現状がある。横断歩道を渡る前に、左右を確認し、手を挙げて渡るといふ事は、当たり前だったはずだ。しかし、大人になった今、このようにして横断歩道を渡る人は、あまりいないのだ。

これは、一体どうしてこのようになったのか、その理由として、私はやはり、交通安全に対する気持ちの薄れ。

が、要因ではないかと考える。それが、取り返しのつかない、大きな事故を招くという事を、理解頂きたい。命を奪った加害者、奪われた被害者、とあらにも、なつてはいけない。なつてからは、もう遅いのだ。その為に、もう一度、見つめ直して欲しい、一人ひとりの、たった一つの、尊い命を。その事について考えるきっかけを、私はまるで、あの男の子に、与えられ、教えられた気がした。まさに、小さな先生である。今度は、私がこのことを、伝えていかなければならない。そう思った。そして、自分の命だけではなく、相手の命も守る事の出来る人になりたい。今、自分に何が出来る、何をすべきか、少しずつでも挑戦し、前へ進む。

◎表彰伝達

東北管区警察局長・東北交通安全協会会長連名表彰
 【交通安全功労者】

菊地 利勝 (大玉村)

【優良運転者】
 本間 直二 (本宮市)

交通栄誉章 (緑十字銅章)
 【交通安全功労者】
 大沼 康成 (本宮市)

【優良安全運転管理者】
 小沼 貞彦 (本宮市)

【優良運転者】
 堀内 宣秀 (本宮市)
 伊藤 正司 (本宮市)
 国分 隆一 (本宮市)

福島県警察本部長・福島県交通安全協会会長連名表彰

【交通安全功労者】

影山 直市 (本宮市)
 石橋 正彦 (本宮市)
 橋本 広澄 (本宮市)

【優良運転者】

北澤 光雄 (本宮市)
 小林 己夫 (本宮市)
 阿部 孝好 (大玉村)
 渡邊 栄治 (大玉村)
 菊地 春彦 (本宮市)
 後藤 邦男 (本宮市)

【交通安全功労団体】

本宮地区交通安全協会第2分会 (本宮市)

◎感謝状贈呈

前本宮市交通教育専門員

後藤アツ子 (本宮市)

◎地域別交通事故防止コンクール

- 第1位 本宮地区交通安全協会第4分会 (本宮市)
- 第2位 本宮地区交通安全協会青田分会 (本宮市)
- 第3位 本宮地区交通安全協会荒井分会 (本宮市)
- 第4位 本宮地区交通安全協会長屋・福沢分会 (本宮市)
- 第5位 本宮地区交通安全協会高木分会 (本宮市)
- 第6位 本宮地区交通安全協会糠沢分会 (本宮市)

◎交通安全作文コンクール

応募総数542点 内訳 小学生285点

中学生242点

一般 15点

【小学生低学年の部】

- 最優秀賞 岩根小学校 3年 佐々 千冴
- 優秀賞 大山小学校 2年 鈴木 暖彩
- 大山小学校 2年 渡邊 空
- 本宮小学校 3年 渡辺 幸時
- 白岩小学校 2年 渡辺 美柚
- 玉井小学校 3年 菊田 楓満

【小学生高学年の部】

- 最優秀賞 糠沢小学校 5年 柴原 はな
- 優秀賞 本宮小学校 6年 服部 萌利
- 白岩小学校 6年 移川 愛加
- 五音川小学校 6年 厚海帆乃香
- 大山小学校 4年 関根 なみ
- 玉井小学校 6年 根本 陽光

【中学生の部】

- 最優秀賞 本宮第一中学校 3年 有馬 詩織
- 優秀賞 本宮第二中学校 2年 遠藤 郁翔
- 白沢中学校 1年 太田 桃花
- 本宮第一中学校 3年 田中日菜子
- 本宮第二中学校 1年 豊田 蓮
- 白沢中学校 2年 服部 大樹

【一般の部】

- 最優秀賞 本宮高等学校 1年 安田 実夢
- 優秀賞 本宮高等学校 1年 長谷川麗香
- 本宮高等学校 1年 橋本 里菜
- 一般 本宮高等学校 1年 伊藤 恭子



最優秀賞の表彰を受ける
 岩根小学校3年 佐々 千冴さん

小学生低学年の部

【最優秀賞】
 『お母さんの大切な言葉』
 岩根小学校3年 佐々 千冴

「行っているじゃない。気を付けて。」

これは、お母さんが毎日語っている言葉です。ぼくが学校に行くとき、お父さんが仕事に行くとき、かならず語っています。「行っているじゃない。」「だけではなへ、」気を付けて。「を言うのは、意味があるんですよ。」

「うん、無事故であるようにこのねがいです。もううんは、家まで会話して、落ちついた気持ちで出かけることで、自分で安全に気をつけるように注意してほしいという意味だそうです。」

気をつけるのは、学校に行くときばかりではありません。お店などのちゅう車場でも、お母さんのゆくそへがあります。下を向いて歩かないこと、ふざけて歩かないこと、左右をかくはんするんですよ。」

そして、走っている車だけではなく、止まっている車も、「エンジンが止まっているときは注意しなさい。」

とよく言われます。前や後ろに発しんする場合からです。運てん手からは、体の小さい子どもは見えていなくて、気がついていないかもしれせん。ぼくは、エンジンがついた車の近くを通らないようにしています。また、とつせんとび出したり、前をよく切ったりもしないで「行っていきます。」

ぼくには、二才になったばかりの妹がいます。ちゅう車場では、妹をお母さんがだっこして「あ、自分で歩くのが楽しへ、」

「あ、の。」
 くだだをこねて歩きたがります。でも、お母さんは、安全な場所に行くまで、だっこをばしませんが、ぼくはもつと体の小さい妹は、すへに車のかげにかくれてしま、運てん手からは見えていないと思います。それ「車がかわいひや、道路があぶないことを妹は知りませへ。だっこをばなすよ、とてもきけんだと思ひます。だから、妹がもう少し大きくなるまで、お母さんにだっこしてもらひたいです。」

いつもいつも同じことを言わねるひ、「うん、お母さん、わかっているよ。」と思ひてしまひますが、子どもが事故にあった「ニュースを見たときは、かわいそうに思ひうのと交通安全を考へます。だから、ぼくは、学校の交通安全教室で学んだことや、お母さんのゆくそへをいつも頭に入れて生活していきたいです。妹を守るためにも、ぼくがしっかりと交通ルールを守り、もう少し大きくなったら教えていききたいです。」

小学生高学年の部

【最優秀賞】
 『交通事故を防ごう「飛び出し坊や」』
 糠沢小学校5年 柴原 はな

みなさんは、「飛び出し坊や」を知っていますか。道路に飛び出そうとする少年の姿をしたかんばんです。子どもたちに飛び出さないようによびかけるとともに、車やトラックの運転者にも子どもたちに注意を払うようにうながしているのです。

私は、小さいころ「飛び出し坊や」に助けられたことがあります。祖父の家の前の道路で飛び出しそうになったとき、「飛び出し坊や」が目に入りました。それで、私は飛び出さずすんだのです。もし、そこに「飛び出し坊や」がなかったら…と考えただけで今でもソツとします。

今も昔も子どもがけくなったり、ケガをしたりする交通事故が後をたちません。交通事故は新年度が始まって、生活が落ち着いた五月以降に起こることが多いそうです。交通事故総合分析センターによると、二十五五年に登下校中の事故で亡くなったり、ケガをしたりした小学生一年生は五百七十一人でした。このうち半分近くが、子ども自身の飛び出しゃなめの横断による事故でした。

歩行中の事故にあり、亡くなったりケガをしたりした人の数は、全ての年れいのうちで七才児が最も多くなっています。二十五五年は、歩行中の七才児の三人が亡くなり、千四百五十九人がケガをしました。その大きな原因は、小学校に入り、一人で遊びに出かけるようになったり、子どもだけで通学するようになったりして、事故にあつ機会が増えるからだと考えられます。

また、事故にあつ小学一年生は、五月に急に増え、十一月まで多い状態が続いています。この事実をひまへ、自分自身で、ふだんから交通事故に気をつけることも、一緒に登下校する一・二年生に対しても注意をうながしていきたいと思います。また、交通事故は自分が気をつけてへるものではないので事故にならないように、「シートベルトをつけて」などいろいろな注意を地いきの人や家の人に呼びかけていきたいと思います。